

Wide World Wide View

同志社高等学校1年 岩本 蘭

高校生の夏。今しかできないことを探していた。そんな私が見つけたのがあるキャンプだった。

日本に一年間留学してきている外国人や、日本人、いつもは外国に住んでいるけれど夏休みだけ日本に帰ってきて参加した人。住むところも、言語も文化も違うさまざまな人。一つ屋根の下で日本語というつながりだけで3泊4日を過ごした。一緒に歌ったり踊ったり、外国の遊びや早口言葉を教えてもらったり。すぐに打ち解けて楽しい時間を過ごした。外国人、日本人関係なく、とても仲良くなることができた。

参加者の日本人の中には、英語がペラペラで留学生と楽しく英語でおしゃべりする人もいた。そんな中、私はほとんどまったくと言っていいほど英語を話すことができなかった。私の英語力は、高校生の中では高いほうだと思っていた。しかしその自信は見事に打ち砕かれた。言葉は浮かんでくるものの、声が出ない。周りの英語がペラペラな日本人と比べると自分の発音がすごく劣っているように聞こえて、結局日本語で話してしまう。

多くの日本人は外国語、たとえば英語を話したがる人が多いと思う。間違った英語を話していたらばかにされるんじゃないか、とか、ネイティブみたいに発音できないから笑われるだろう、どーせ相手に通じないだろう、と思って英語を話すことをためらってしまう。学校の授業でも英語で話すことを恥ずかしがる人が多い。だからいつまでたっても上達しない。私もそのうちの一人だった。わざわざ声に出して話さなくても頭に浮かんでいれば大丈夫と考えていた。しかし、キャンプに参加してその考えは間違っていたとわかった。

日本語がそんなに上手ではない留学生もいる。完璧に日本語を話せる人なんていない。みな多かれ少なかれ間違いながらも会話している。彼らはそんなつたない日本語で一生懸命いろんな人にしゃべりかけ、意見を述べていた。自分の知っている語彙で、相手に分かっ

てもらおうと一生懸命に話していた。私たち日本人は彼らの目を見て話を聞き、なんとか理解しようと努めた。このとき、言葉が通じる、会話をする、というのは、話をする側と聞く側の双方の努力がとても大切なのだと実感した。そして、伝えたいという意思があれば分かり合うことができるかと切に感じた。同じ言語を使う者同士でも、分かり合うことができないときは多々ある。そこで私は気づいたのだ。言語は一つのツールであり、大切なことはそれをどう有効に生かすかだということに。

外国語が完璧にしゃべれないと国際交流ができない、というのは間違いだ。お互いが完璧にしゃべれる言語がないにもかかわらず、意思を通じあうことができるし、楽しく語り合うことだってできる。

3日目、皆で過ごす最後の夜。キャンプファイヤーで楽しんだ後、*speaker's corner* というものがあった。消えゆく炎をバックに、話したいと思った人が、一人ずつこのキャンプで感じたことを前に出て語る。私も、勇気を出して手を挙げた。

前に立ち、皆の顔を見回す。ここにいる人たちは、国際交流がしたい、世界を舞台に働きたいなど、将来への夢や希望、自分のやりたいことを持っている。そして今、それに向かって努力している人ばかり。その目はキラキラと輝いている。私はゆっくりと話し出した。自分は十分将来へ向けて努力をしていると思ったが、皆を見てまだできることがあると思ったこと。今、医療通訳者になるという夢のために英語とドイツ語を勉強していることを話した。話すことによって夢が実態を持って感じられた。

今まで私は国際交流をしたことがなかった。外国人と話したことは数えるほど。外国に行ったこともない。そんな私にとってこのキャンプは驚きや発見の連続、すごく大きな経験になった。そして、*speaker's corner* で皆の前で語る、というのは私の中で一大決心をしたことの表れだった。話をしているその瞬間から、私の国際交流はほんとうに始まったのだ。

そして、キャンプは私にもう一つの変化をもたらした。日本という国についてもう一度深く考え直す機会になったのだ。私たちの住む国には歴史がある。そして、日本語でしか表現できない感情がたくさんある。そんな、日本と日本語を誇りに思う感情が芽生えた。これは、一度日本を内からではなく、外からの視点で見ることができたからだ。

自分と価値観の違う人と話すということは、自分の世界を一つ広げる。新しい言語、新しい場所、新しい文化に出会うことも同じ。私は、将来日本に住む外国人のために働こうと思っており、日本でできる国際交流を探していた。外国で活動しようと思っているわけではないし、外国には行かなくていいと思っていた。しかし、その考えでは自分の価値観が狭くなると気付いた。

インターナショナルキャンプが終わってもう一か月になる。私は、もっともっと出会いを求めるようになった。広い視野で物事を見たい、感じたいと思った。言語を広く深く学びたい。そして、外国に行きたい。その国の人と話し、その国の空気を肌で感じたい。今のうちにやっておきたいことがたくさんできた。私の高校生活はまだ始まったばかり。充実したものになりそうである。